

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	グリーンヒルキッズ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日		～ 令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和7年2月15日		～ 令和7年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・学習支援	・児童の能力や実態に応じた学習教材を提供し、無理なく取り組むことができるように配慮をしている。 ・児童の様子を見ながら、支援が必要な子には一緒に考えながら取り組んでいる。自力で取り組める子には見守り支援を行い、終わった後は必ず確認するようにしている。	・個々の特性や能力に合わせた支援ができるように、提供する学習教材を工夫する。 ・構音指導や視力トレーニング等が必要な児童には、適切な指導が行えるようにしていく。
2	・社会性の向上	・人のかかわり方(距離感・声の大きさ・言葉がけの仕方)が適切に行えるよう、声掛けをしている。 ・コミュニケーション能力の発達を促していけるよう、集団遊びを取り入れるなど他のかかわりを増やしていけるようなプログラムも行っている。	・他事業所との交流や高齢者施設の交流など、地域との交流を通して社会性を身につける取り組みを行う。 ・SSTの学習を通して、いろいろな場面に応じた行動や人のかかわり方を学ぶ機会を作るようにする。
3	・家族支援	・保護者からの相談があった際には、保護者の気持ちに寄り添いながらサポートできるように心がけている。 ・必要に応じて関係機関との調整を行いながら、保護者の精神的な負担が軽減できるようにしている。	・学校や行政等との連携をとりながら支援を行う。 ・電話での相談に限らず、面談する場も設けながら、保護者への支援体制がとれるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・学習支援	・個別に支援を必要とする児童が多く、下校時刻が重なった際には一人一人個別支援をすることが難しいため、職員の数の増員が必要である。 ・小学校低学年から高学年の児童がおり、指導内容が幅広いため、学習指導のできる職員の採用や養成が必要である。	・個別支援に対応できるように、職員を増やす。 ・学習に集中できる環境にするため、学習中は遊びの音が小さくなるよう、早く下校してきている児童には声の大きさ等を指導する。 ・児童の実態に合わせた教材の準備や教具の工夫をし、興味関心の幅を広げる。
2	・社会性の向上	・相手の気持ちを考えない行動や言葉遣いをしてしまう児童が見られるなど、社会性が身につけていない。 ・地域との交流する時間があるとよいが、平日は時間をとることが難しい。 ・来所時に自分から挨拶できる児童が少ない。	・児童と一緒に遊ぶことも大切にしながら、児童の様子を観察し、場面に応じた指導をしていくように心がける。 ・コミュニケーション能力を向上させていけるよう、SSTを取り入れるなど、いろいろな場面に応じた行動の仕方を考えさせていくプログラムを取り入れる。
3	・家族支援	・児童のいる時間は、なかなか時間が取れないため、電話での相談等が営業時間外になってしまうことがある。 ・個々の相談に応じることができる職員が限られてしまう。	・県の行政機関や八千代市の福祉機関を利用することを促す一方、保護者の相談にしっかりと耳を傾けながら保護者の気持ちに寄り添えるように支援する。